

第 3 回佐賀市部活動地域展開会議 委員事前ヒアリング結果

◇方向性 1 学校部活動としての活動量・活動内容の見直し	
活動量の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動形態を想定して、日数ではなく時間で規制する考えはいい。 ・志向に応じた選択を生徒ができるようになる。 ・子どもがバーンアウトしないように、生涯スポーツの観点から次のステージにつながる。 ・休むこと、回復させることも指導者として持つておかないといけない視点。 ・学校（部活動）が担ってきたことを、まちぐるみで支えていくという意識改革につながる。 ・並行して受け皿を拡充することで、部活動以外の種目にも取り組むことも可能になる。 ・平日のみ 8 時間は「職務命令として依頼できる範囲」だと感じる。 ・球技や吹奏楽は、活動の特性上足りない。ガイドラインを遵守することで損をする懸念。 ・指導したい先生のモチベーションがあがらないのではないかと。何を目標にするか。 ○民間クラブの活動量（2時間の週3日+週末の大会）と比較しても適切な水準だと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・バレーナース U15・・・月・水・金の週 3 回。各 2 時間（19：30～21：30）。 土日は練習のみの場合、いずれか 1 回。2 時間 →週 8 時間 ・アスリートリンク・・・月・水・金の週 3 回。各 2 時間（17：30～19：30） 土日は、大会以外は練習なし。
生徒の主体的な活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット上には情報もあふれており、子どもたちでメニューを考えることも可能な環境。 ・顧問にとっても、短時間で質の高い練習内容を再考する契機。 ・現在もコンクールの期日から逆算して、生徒がメニューを作成しており効果がある。 ・量を減らすことにより“質”を向上させる視点が重要。 (例) 練習動画をトップチームに送り、指導を仰ぐ / トピック的な出前講座 チームビルディング等のノウハウをトップチームや指導者間で共有 ・リーダー育成がポイント。最初から生徒に任せるではなく段階的に主体性を育む必要。
複数顧問制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「部活：最低限の活動保障・主体性を育む」、「顧問：安全配慮」と位置付けては。 ・外部活担当と体育館部活担当を複数 G で配置し、輪番制で“見守る”形にしては。 →季節により、競技ごとではなく合同練習も可能になる（専門外の先生の負担減） ・専門的な指導をしたい先生は、勤務（部活）終了後、兼業でクラブ指導へ。 ・学生の活用で技術指導は学生が担い、人材不足解消と人材育成の両立を図れたら。 →ニーズに合った競技を指導する学生とのマッチングができれば。 ・中体連大会の引率条件の見直しを。 →社会体育で活動をしている生徒引率を学校職員がしなくていいように。

合同部活動の 推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校側（校長・顧問）や中体連に直接希望をとって設置を促進してはどうか。 ・部活動終了時間を繰り上げ、指導従事したい先生や地域指導者によるスキルアップを目指す生徒への合同練習会の形を定期的実施してはどうか。 ・大会出場を目的としない週末限定のスポット的な合同練習から段階的に始めてはどうか。 ・小規模校にとってはメリットがあるが、送迎や楽器の運搬等の保護者の負担が懸案。
◇方向性 2 多様なクラブ・スクール活動への生徒参加の円滑化	
<ul style="list-style-type: none"> ・活動量の見直しと並行して、受け皿の掘り起こしと拡充を。（特に吹奏楽） ・指導者の短期派遣（学生コーチ活用含む）やクラブ主催のイベント等への参加も考えられる。 ・スポーツ少年団の指導者が、学校運動部活動の指導を担っていきたい。 →収入の確保、指導者人材の確保（スタートコーチとしての資格）、施設の確保 ・学校部活動への補助金の在り方を見直し、段階的に社会体育・社会教育への支援にシフトしてはどうか。 ・各競技団体へ周知するための枠組みの整理。（市スポーツ協会の関わり方） 	
◇方向性 3 地域型クラブの立ち上げ・運営に対する支援	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の優先使用の条件整備（施設開放の調整時期等） ・キーボックスなどの工夫（学校の負担を増やさないため） ・市スポーツ協会管理施設の利用調整。 ・子どもたちにとって不利益が生じないような大会参加条件の整備 →中体連の参加資格見直しの継続要望を ・協働体制構築のため、部活動改革についての周知・意識改革が不可欠。 →PTA との連携で、各部活動の保護者への周知を図っては。 →受け皿拡充で中体連ありきの環境や意識からの脱却に。「中体連で引退」から「年間通した活動」に。 ・吹奏楽は、保護者会立での運営への移行が実態に即しているのではないか。 ・地元企業との協賛が有効だ。 →最初は佐賀市教委や佐賀市の後援（協力）や公認があると協賛金を集めやすいのでは。 ・地元の既存クラブと連携し、総合型クラブに移行することが有効だ。 →学校施設の借用に関して融通が利くのではないか。 ・大会引率・役員従事に対しても無償ボランティアにしないことが重要だ。 ・指導者、地域クラブ等へ参加する生徒の移動を考慮した開始時間の設定。 	

[その他]

- （見直し） 部活動ガイドラインは、令和 6 年中に改訂、周知。令和 7 年を試行期間としてはどうか。
- （役割分担） 推進のために、部活動のスリム化は教育委員会、受け皿拡充は首長部局で分担してはどうか。
- （ガイドライン） 総合型地域スポーツクラブ用のガイドラインもあればよい。
改訂するガイドラインの適用範囲を明確にしてほしい。